

## 4 産業・移住



小布施町の基幹産業である農業を軸にしながら、創意と交流の力で産業全体の活性化を図り、次世代を担う若者や産業の創出により新しいひと・しごとの流れをつくり、将来にわたって賑わい溢れ、住みたくなるまちをつくります。

### 分野別目標（ありたい姿）

- 1 営農環境と生活環境の調和を図り持続的な農業を進めるまち
- 2 産業の活性化と次世代につながる産業創出により地域経済が活性化しているまち
- 3 新しい賑わいが生まれるおもてなしのまち
- 4 花と緑を介して賑わうまち
- 5 移住希望者に選ばれ、地域の活力が持続するまち



## 達成目標 (KPI)

評価指標	現況値		目標値 (令和11年度)	該当
	値	年度		
新規就農支援制度を利用し定着した農家農業従事者数 (累計)	24人	平成24年度から令和6年度	34人	分野別目標1
農業共済収入保険加入者数	116人	令和6年度	150人	分野別目標1
認定農業者数	96人	令和5年度	106人	分野別目標1
農地の集積率 (目標面積 788ha)	35.1% (276ha)	令和5年度	50% (394ha)	分野別目標1
商工業事業承継相談件数	2件/年	令和5年度	5件/年	分野別目標2
空き店舗等活用事業補助金支給件数	5件/年	令和5年度	10件/年	分野別目標2
1日あたりのおぶせロマン号乗客数	47.9人	令和5年度	60人	分野別目標3
観光協会利用者数	19,471人/年	令和5年度	35,000人/年	分野別目標3
オープンガーデンオーナーの軒数	102軒	令和5年度	107軒	分野別目標4
転入者数	338人/年	令和5年度	400人/年	分野別目標5
関係人口向け LINE アカウント「おぶせじん」登録者数	2,700人	令和6年度 (R7.1.1 現在)	4,000人	分野別目標5



## 分野別目標 1

### 営農環境と生活環境の調和を図り持続的な農業を進めるまち

農業者がやりがいを持ち持続的に農業に取り組めるよう、営農環境と農家以外の人々の生活環境との調和を進めるとともに、小布施産農産物の魅力と価値を共有し合える人をつなぐことで、持続的な地域農業を目指します。

#### 現状と課題

農業従事者の高齢化が進み、後継者不足に伴い遊休農地の増加が急速に進む可能性があります。また、地域農業を支える農業用施設の老朽化や農地周辺への農家以外の住宅の建設の進行もあいまって、営農環境の変化が生産活動の低下につながっています。

このようなことから、生産性を向上させるため農地の集積・集約を進め、新たな技術を導入することで効率的な営農環境の整備に取り組むとともに、小布施産農産物の高付加価値化による所得向上に取り組み、農業に魅力とやりがいを感じる担い手を育成する必要があります。

また、農村部のコミュニティ維持のため営農環境と生活環境の調和を図り、地域の特性を活かした持続的な農業を進めることが必要となります。

#### 重点施策

##### 担い手育成確保による農地の保全・継承

親元就農者、定年等帰農者、新規就農者など、今後の農業の担い手として活躍が見込まれる人に対して、農業体験や研修などの機会を充実させ、農業委員会をはじめ関係機関が協力して相談から就農までの確実かつ継続的な支援を行います。

また、意欲ある担い手に対して、技術、農地、農機具などを継承することができる仕組みづくりを行うとともに、農業法人・営農組織等の参入促進にも取り組みます。

##### 生産基盤の整備及び農地の集積・集約化による営農環境の充実

効率的かつ安定的な農業生産を行うため、良好な営農条件を備えた生産基盤の整備を進めるとともに、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮につなげていきます。

農地中間管理事業を活用し、地域計画の担い手へ農地の集積・集約化を促進するとともに、町の施策に合わせた土地の利活用について検討を進めながら、遊休農地の発生防止・解消に取り組みます。

##### 地球温暖化に対応した農業の推進

気候変動などによりこれまで適地とされてこなかった作物の栽培や凍霜害対策、病虫害対策に関する研究などに取り組みます。また、省力化が期待できるスマート農業<sup>\*26</sup>の導入や経済性や生産性に留意しつつ環境への負荷を低減できるような技術導入、さらに、頻発する気象災害や有害鳥獣被害に対応するため農業共済への加入促進を図るとともに、鳥獣対策の電柵等の設置に対して支援を行います。

\*26 ロボット技術やICTを活用して超省力・高品質生産を実現する新たな農業を実現すること。

## 重点施策

### 農産物ブランドの再構築と販路拡大等による農家の所得向上支援

りんご、ぶどう、くり等の特産の果樹の生産振興を進めるとともに、経営規模や販路の拡大などに意欲的な農家を支援します。農商工連携により町内で生産された農作物を利用した特色ある商品開発を進めるとともに、物産展などへの出店により新たな市場の創出に取り組みます。

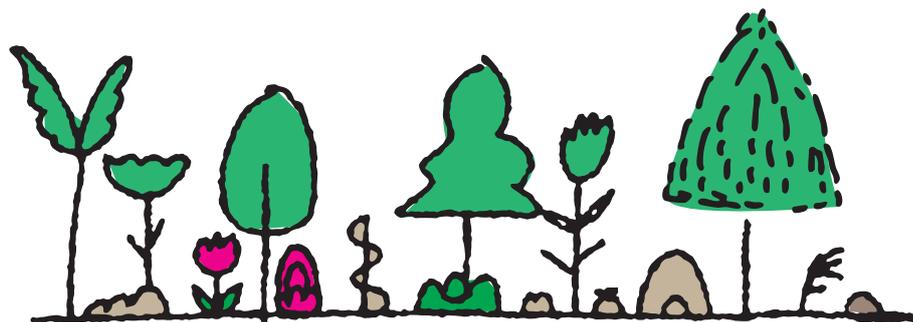
また、関係機関との連携により、地域になじみのある農産物の「小布施産」というブランド力や付加価値を高めることで、農家の所得向上を図ります。

## 基本施策

### 農村コミュニティの維持・発展

農村コミュニティの維持・発展のために、営農環境と生活環境の調和を進めつつ、農業体験を通して農村集落の空き家等へ農業に従事したい人を呼び込みます。

→関連施策：重点施策 うるおいのある美しいまちづくりの推進



## 分野別目標 2

# 産業の活性化と次世代につながる産業創出により地域経済が活性化しているまち

基幹産業である農業とともに町経済を支える商工業者の皆さんに寄り添いつつ、関係機関との密接な連携により着実かつ力強い産業の振興を図ります。「オール小布施」で多様な取り組みを展開する農商工連携を一層推進するとともに、新産業の創出や事業者の誘致にも取り組みます。

### 現状と課題

後継者問題を抱える事業者が多く、事業を譲りたい人と引き継ぎたい人のマッチングの強化が求められています。

町内では、今後、長期的に空き家・空き店舗などが増えることが見込まれるため、町内外の起業への意欲がある人や出店希望者の利活用を促し、町内経済の活性化を図る必要があります。

さらに人口減少により業種に関わらず人手不足が深刻となる中で、DXによる省力化の推進及び労働環境の整備による町内企業の魅力向上が必要です。

また、農商工連携を推進するにあたり事業者の理解、賛同、実践が必要となります。

### 重点施策

#### 魅力的な事業者誘致、多様な起業支援の推進

新たな職種や雇用の創出により地域の活性化・産業力の向上につなげるため、町内で新たに事業を実施しようとする人を支援します。加えて、町の特性にあった事業者の誘致や新産業の創出にも取り組みます。

具体的には、都市部からつながりのある企業を誘致し、体験型サテライトオフィス<sup>\*27</sup>の利用から町内での事業拠点設置につなげることで、地域内に新たな分野の雇用や魅力づくり、空き家・空き店舗等の活用に結び付け、若い世代が「戻りたい」、「移住したい」と思えるまちづくりに取り組みます。

→関連施策：重点施策 多様な主体間協働による特色あるまちづくりの推進

#### 空き店舗の活用促進

地域の活性化と雇用の促進を図り、賑わいのある商店街づくりを推進するため、町内の空き店舗を活用し新たに事業を始める人を支援します。空き家と同様、空き店舗物件の利活用が進むよう、民間や関係機関と連携して利用希望者とのマッチングに取り組みます。

→関連施策：重点施策 空き家・空き地の予防と利活用の強化

\*27 企業または団体の本拠から離れた所に設置されたオフィスのこと。本拠を中心としてみた時に衛星（サテライト）のように存在するオフィスとの意から命名された。（総務省）

## 地域事業者支援の強化

商工会や金融機関などと連携して、既存産業を維持継続していく上での課題やニーズを調査し、人材獲得支援などにより町内の既存事業の活性化を図ります。

また、物価高騰等の影響を受ける事業者の事業継続・経営安定のため、調査や支援策の実施、融資に係る保証料補給や利子補給による資金繰りの支援を行います。

## 次世代の担い手の発掘と育成・継承

円滑な事業承継によって事業価値をしっかりと次世代に引き継ぎ、事業の継続につなげるため、令和5年度に県事業承継ネットワークが実施した事業承継調査を元に、相談機会の充実や後継者の育成支援など継承に向けた取り組みを進めます。

## 地域との協働連携体制の強化、つながりづくり

いつまでも賑わう地域であり続けるため、同業あるいは事業横断的な事業者同士の交流機会を創出して地域内循環を促します。

農・商・工の各生産者が持つ技術やノウハウを掛け合わせることで、特色ある小布施の製品の価値や魅力をさらに増大させるとともに、新たな商品やサービスの開発につなげます。

→関連施策：重点施策 小布施まちづくり委員会など町民との協働

## 企業や大学、若者との連携を促進する場や仕組みづくり

企業や大学、若者との連携を促進する場や仕組みづくりにより、多様な連携が生まれています。

今後もそれぞれが連携できる環境を整備し、地域の人口維持や産業振興、特色ある地域づくりに町民と一緒に取り組みます。

→関連施策：重点施策 多様な主体間協働による特色あるまちづくりの推進

## 分野別目標 3

### 新しい賑わいが生まれるおもてなしのまち

葛飾北斎や高井鴻山をはじめとした歴史資産、質の高い農産物や栗菓子などの加工品、洗練されたスイーツやグルメ、美しい田園風景や花で彩られる町並景観、伝統的で豊かな生活文化など、町が持つ本来の姿を大切にしながらさらに磨きをかけ、来訪者の期待にも応えられるおもてなしのまちを目指します。

#### 現状と課題

小布施町の来訪者は比較的高年齢層が多く、今後、日本国内の人口は長期的に減少が見込まれることから、若い世代やインバウンド\*28の誘客を強化し来訪客の幅を広げる必要があります。

また、来訪者と町民どちらにとっても心地よい環境整備を推進するとともに、付加価値の高い体験や商品を充実させることで、地域の価値を高めて小布施ファンを増やし、町民生活への負荷を抑えながら、町民と町内事業者双方にとって持続可能な賑わいのある地域づくりを進める必要があります。

さらに、近年増加傾向にあるインバウンド需要に対する適切な対応が求められています。

#### 基本施策

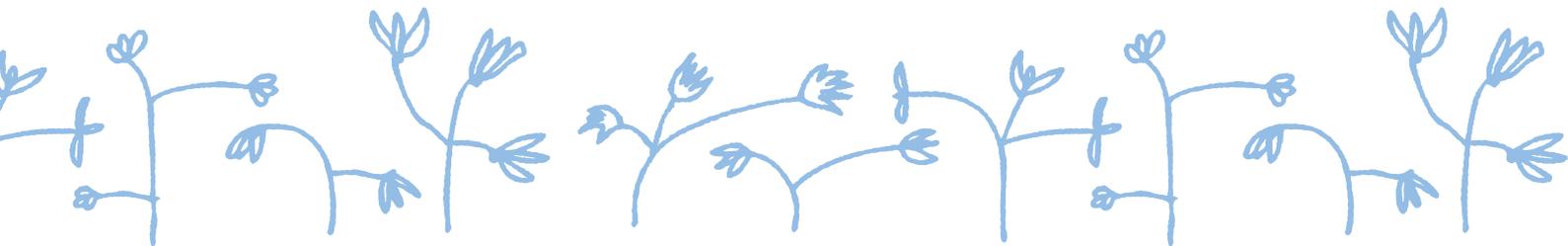
##### おもてなしの観光案内と観光需要の平準化

駅に降り立った人たちが心地良いと感じられる駅前空間の整備を進めるとともに、国道403号の整備とあわせ町中心部へのゆるやかな誘導を図り、昔からあるおもてなしの心で来訪者をお迎えしさらなる交流を推進します。

また、来訪者の少ない冬季などにも交流の機会を設け、繁忙期と閑散期の平準化を図ります。

##### 地域資源の活用とインバウンドに対応した受け入れ態勢の強化

山や川、田畑、農家住宅、寺院など農村部の地域資源を生かした体験型コンテンツの充実を図るとともに、周辺地域と連携した取り組みや外国語による案内の充実などにより、インバウンド需要に対応した外国人観光客の受け入れ態勢を強化します。



\*28 「inbound」外から入ってくる旅行、一般的に訪日外国人旅行者を指す。対義語は外に出る旅行、海外旅行を指す「アウトバウンド」(outbound)。(観光庁)

## 分野別目標 4

### 花と緑を介して賑わうまち

これまで推進してきた花に関する取り組みを振り返りその意義を再確認する中で、ここに暮らす私たちの生活に豊かさをもたらすとともに、訪れる人々にとっても心地よい景観を作り出す花によるまちづくりの取り組みを、官民一体となってさらに深化させます。

#### 現状と課題

オープンガーデンオーナーの高齢化が進み、脱会する人もいることから、既存オーナーの継続や世代交代をサポートするとともに、若い世代や事業所の新規オーナーを増やす取り組みが必要です。

フローラルガーデンおぶせや、おぶせフラワーセンターなどの花関連施設は、開設から20年以上経過する中で、他の公共施設と同様にその目的や今後のあり方について再考する時期を迎えています。

町制施行70周年を記念して実施した「オープンガーデン巡り」や「花回廊・花マルシェ」などのイベントは、その成果を検証し今後の取り組みに活かすことが求められています。

#### 重点施策

##### 花のまちづくりの推進

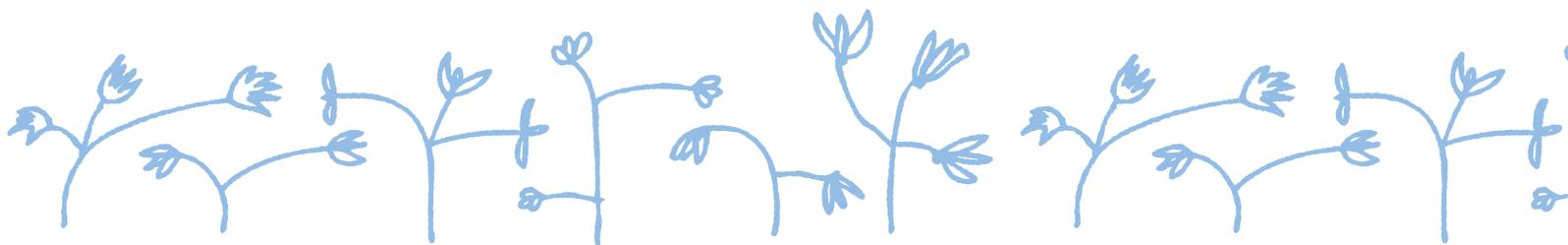
うるおいのある美しいまちを目指し、花のまちづくりを推進し、来町される人々を花で出迎え、町内外の人との花を介した交流の輪を広げ、活性化を図ります。

また、行政と町民の協働による花のまちづくりをさらに推進するため、オープンガーデンの充実や事業所、自治会の花づくりの奨励、公園・花壇の充実を図ります。

→関連施策：重点施策 うるおいのある美しいまちづくりの推進

→関連施策：重点施策 小布施まちづくり委員会など町民との協働

→関連施策：戦略的推進プロジェクト2 地域資源を大切にしながら新たな価値を創造するまちづくり



## 花仲間の連携強化とさらなる花づくりの機運醸成

オープンガーデンや地域の花壇づくりなどを通じてこれまで花づくりを牽引して来られた方の取り組みを引き続き支援するとともに、情報交換や連携協力によりさらなる体制強化を目指します。

花づくりに興味があってもなかなか手を出せずにいた町民や、新たに小布施町に引っ越して来られた人々などを対象に、花に関わる第一歩となるような施策を推進します。

## 分野別目標 5

### 移住希望者に選ばれ、地域の活力が持続するまち

移住・定住のきっかけづくりや、移住・定住に関する事項を気軽に深く相談しやすい環境を整備することにより、移住者・定住者を増やし、町の人口構造を維持していきます。

また、少子高齢化の特に進む地域について、子育て世帯を中心とする若い世代に選んでもらえるような取り組みを進めていきます。

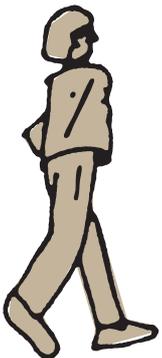
さらに、移住者がまちづくりや地域の担い手として地域に参加できるような取り組みを推進します。

### 現状と課題

小布施町では現在、年間30件の移住相談を受けています。今後も移住を希望する人への精力的な情報提供に努め、町への興味・関心を深めてもらうことが重要です。令和6年4月には、小布施町は民間組織「人口戦略会議」が定義した「消滅可能性自治体」から脱却しましたが、このような傾向を持続させていくためには、子育て世帯等の若い世代に転入してもらう必要があります。

小布施町における社会課題に対する取り組みや新たな事業が、町外の人との「かかわりしろ<sup>\*29</sup>」となります。こうした「かかわりしろ」の裾野を広げることや、新たに関わり始めた人に魅力ある土地であると思ってもらうことで、若い世代を中心とした移住につながります。

移住者の中には、自治会や消防団などに加入するなど地域活動にとっても積極的な人がいます。このような輪を広げることで、地域の活力はさらに向上すると考えられます。このため、より多くの移住者に地域の担い手としての役割を持ってもらうことが求められています。



\*29 町外の人が、町に関与する余地のこと。この場合の「余地」とは、機会やきっかけなどを指す。

## 地域の担い手となる若者等の移住・定住の推進

移住定住コーディネーターなどといった専門的な移住相談の窓口を引き続き設置し、各種移住セミナー等で小布施町の魅力を発信するほか、小布施町への移住希望者に綿密な情報提供や移住相談を実施するとともに、不動産業者等と連携して住まいの提供や暮らしのサポートをします。

また、既に町内にお住まいの人で、アパートから戸建て住宅に引っ越したい場合等の定住相談も実施するとともに、町民向けの周知も強化していきます。

さらに、移住・定住希望者がテレワーク等をしながら長期滞在して暮らしを体験できる仕組みづくりや移住・定住希望者と空き家のマッチングにも取り組みます。

また、子育て世代のほか、進学や就職等のために町を一度離れた若者のUターンやIターン、Jターン等による移住・定住を促進します。

→関連施策：戦略的推進プロジェクト2 地域資源を大切にしながら新たな価値を創造するまちづくり

## 関係人口の創出

まちづくりや事業創出の担い手となる人材と町の接点づくりを推進し、移住・定住につなげていくため、多様な交流で関係人口創出事業の推進や地域おこし協力隊制度のさらなる活用に取り組みます。

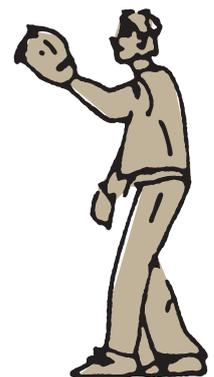
→関連施策：重点施策 歳入改革の推進

→関連施策：重点施策 多様な主体間協働による特色あるまちづくりの推進

## 主な関連計画

- ・小布施町農業振興地域整備計画（令和7年度～令和16年度）
- ・農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する計画

⑩



暮らしに役立つ、  
町を身近に感じる、  
情報をお届けします。



小布施町LINE公式アカウント



小布施町公式ホームページ

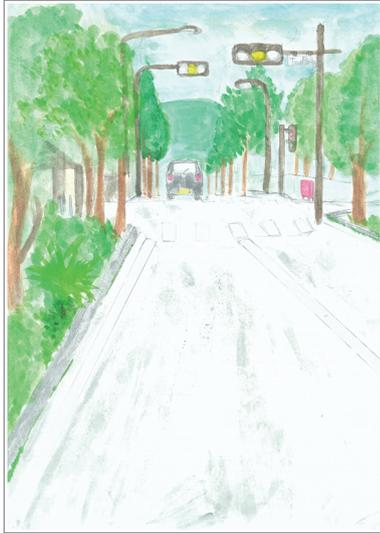
町の様子をまとめたお便りを月1回程度お届けします♪  
小布施ファン向けLINE公式アカウント



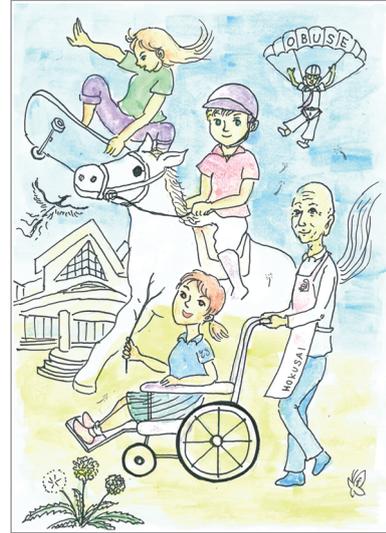
小布施町とつながるマガジン

おぶせじん





「私の大好きな小布施～大日通り～」  
 番場 絢音 小布施中学校



「エンジョイ・ライフ～多様性～」  
 永井 文章 小布施中学校 教諭



「未来に残したい小布施の風景～逢瀬神社のきれいな自然～」  
 関谷 涼乃 栗ガ丘小学校

## 5 環境・防災・インフラ

7 エネルギーをみんなに  
もってクリーンに



11 住み続けられる  
まちづくりを



12 つくる責任  
つかう責任



13 気候変動に  
具体的な対策を



小布施町の持つ都市と農村の良さを大切に次世代につなぐため、気候変動に対応し町民の意識改革や資源循環に取り組むほか、近い将来起こりうる災害を想定し、危機意識を持って事前想定や対策・体制づくりを進め、安心と安全が守られて住み続けたいと思える基盤を形成します。

### 分野別目標（ありたい姿）

- 1 将来の災害に備えた強靱なまち
- 2 小布施ならではの町並み・緑豊かな景観を大切にしたいまち
- 3 快適に安心して暮らせるインフラのあるまち
- 4 安心な暮らしが守られているまち
- 5 豊かな自然が保たれ、環境負荷が抑えられているまち



## 達成目標 (KPI)

評価指標	現況値		目標値 (令和11年度)	該当
	値	年度		
自主防災組織の結成率	100%	令和6年度	100%	分野別目標1
消防団員数	178人	令和6年度	183人	分野別目標1
新築住宅の住まいづくり相談率	61.53%	令和5年度	100%	分野別目標2
住宅の優良な景観建築物の認定応募件数	3件/年	令和5年度	4件/年	分野別目標2
住宅の優良な景観建築物の助成件数	1件/年	令和5年度	5件/年	分野別目標2
除雪路線	90.8 km	令和5年度	90.8 km	分野別目標3
刑法犯罪件数	30件/年	令和5年度	減少又は0件/年	分野別目標4
交通死亡事故件数	1件/年	令和5年度	0件/年	分野別目標4
二酸化炭素排出量	6万 t-CO2	平成30年	3万1千 t-CO2 (令和12年)	分野別目標5
可燃ごみ排出量	2,425 トン	令和5年度	1,794 トン (令和12年)	分野別目標5



## 分野別目標 1

### 将来の災害に備えた強靱なまち

近い将来起こりうる災害を想定した体制や設備を整備し、町全体で災害に強いまちづくりに取り組みます。

#### 現状と課題

災害時の活動拠点となる須坂市消防署小布施分署の老朽化が進み、地域の生命財産を守る消防団員の確保も難しい状況になっています。令和元年台風19号災害での教訓を生かし、国や県、専門家と協働してハザードマップや支え合い名簿を最新化するなど台風や地震などの有事の備えが必要です。

また、自治会単位で組織した自主防災会の重要性が再認識されましたが、知識やノウハウの継承を行う仕組みづくりが課題となっています。

#### 重点施策

##### 災害想定・対策の強化

国や県、専門家と協働して千曲川や松川のハザードマップ更新や作成、流域圏と協力して災害対策に取り組むとともに、台風や地震など想定される災害とその影響範囲を可能な限り予測し、防災訓練（避難所・福祉避難所・救護所開設訓練等を含む）等を通じて事前対策を強化します。

また、災害発生時の非常電源確保やスムーズな避難に向けた町民との協働のあり方の研究など、発災後の対策強化にも取り組むとともに、迅速な対応を図るため、千曲川・松川ハザードマップのレッドゾーンの地籍調査を行います。

さらに、コロナ禍を経て、国が2024年（令和6年）7月に新型インフルエンザ等対策政府行動計画を抜本的に改定したことから、これまでのコロナ対策を振り返り、感染症対策行動計画を策定します。

→関連施策：重点施策 うるおいのある美しいまちづくりの推進

##### 消防署の機能設備・消防団の人員体制の充実

町民が安心・安全に暮らせるまちづくりの実現に向け、大規模災害に備えた消防機能強化を図るため災害時の活動拠点となる須坂市消防署小布施分署の建て替えを行います。

また、町民の生命財産を守るため有事の際に地域で活躍する消防団員の勧誘や確保を進めます。

## 自主防災会の育成・強化

災害時に町民同士が助け合える体制づくりとして自主防災組織の育成強化に取り組み、地域防災力の向上を図ります。ハザードマップや支え合い名簿を最新化するとともに自主防災会などと共有し、台風や地震などの災害に備えます。また、専門的知識を有する防災士を活用し、地域の減災及び防災力向上を図ります。

→関連施策：重点施策 小布施まちづくり委員会など町民との協働

## ゲリラ豪雨に耐えうる水路の整備

近年頻発しているゲリラ豪雨に耐えうる水路の整備、新たな雨水浸透施設の検討を行うとともに、水路に排水する量を減らすため、各家庭、事業所の敷地内雨水処理に対する支援を行います。

→関連施策：重点施策 うるおいのある美しいまちづくりの推進

→関連施策：基本施策 上下水道事業の経営

## 上下水道施設の更新・耐震化

浄水施設の更新、導水管の耐震化を兼ねた更新を検討・実施します。中区・高区配水池の耐震化、送水管・配水管等の耐震化を検討します。また、下水道施設についても、施設更新及び耐震化を順次実施していきます。

→関連施策：基本施策 上下水道事業の経営

## 雨水排水施設の更新・耐震化・耐水化

排水樋門の遠隔操作とクラウド化を実施します。上信越自動車道開通に合わせて建設された飯田・山王島の雨水排水ポンプ場が供用開始から約30年経過しているため、電気・機械設備、建築物の更新及び耐震化・耐水化など、ポンプ場施設更新の検討を行います。

→関連施策：基本施策 上下水道事業の経営

## 分野別目標 2

### 小布施ならではの町並み・緑豊かな景観を大切にしたいまち

昭和40年代から行ってきた景観のまちづくりを継承しつつ、現代のエッセンスを取り入れながら小布施らしい環境、自然、生活が調和した「うるおいのある美しいまち」を目指し、住む人訪れる人々にうるおいと安らぎ、喜びと楽しみを感じてもらえるまちづくりを進めます。

#### 現状と課題

時代の流れとともに、小布施らしい住宅の建築が難しくなり、小布施に暮らす人たちの誇りとなっている小布施らしい景観を将来にわたって保っていくことへの懸念が高まっています。

また、市街化区域内の農地の宅地化が進み、グリーンインフラ<sup>\*30</sup>が維持できず、ゲリラ豪雨時に雨水処理能力が低下するなど、土地利用の変化は防災の観点からも問題となっています。

#### 重点施策

##### うるおいのある美しいまちづくりの推進

小布施らしい景観を大切にしながら、現代の新しいエッセンスを取り込み、環境、自然、生活が調和した美しいまちづくりを目指します。個人の住宅や店舗などへの助成、景観まちづくりに力を入れる民間団体への支援等を行うほか、建築物の設計段階から住まいづくり相談を行います。

市街化調整区域内のコミュニティの維持と良好な営農環境の維持を目的とした都市計画制度（地区計画）の検討、市街化区域内のグリーンインフラ・農地の維持のための用途地域の見直しを行います。街路樹と沿道花壇の整備を行い、グリーンインフラを維持しながら周りの住環境を損なわないような環境整備を行います。

→関連施策：重点施策 歴史・文化財の発掘と保存継承

→関連施策：基本施策 農村コミュニティの維持・発展

→関連施策：重点施策 花のまちづくりの推進

→関連施策：重点施策 災害想定・対策の強化

→関連施策：基本施策 ゲリラ豪雨に耐える水路の整備

#### 基本施策

##### 子育て支援・健康づくりの場と賑わい創出の公園整備と健全な運営

子育て世代の憩いの場、健康づくりの場、イベント等の賑わい創出の場を目指し、整備計画に基づき総合公園の整備を行います。また将来にわたって長く愛される公園を目指し、健全な運営を実施します。

\*30 自然環境が有する機能を社会におけるさまざまな課題解決に活用しようとする考え方。（環境省）

## 分野別目標 3

### 快適に安心して暮らせるインフラのあるまち

道路や歩道、水路の計画的・継続的・積極的な整備を進め、暮らす人々が快適に、安心して暮らせる公共インフラの整備を行います。

#### 現状と課題

自治会からの要望等による道路改良を行ってきていますが、その他の老朽化している市街地道路の整備も積極的に行い、渋滞緩和等にも努める必要があります。

都市計画マスタープラン改定のためのアンケートでは、道路の整備、歩道の整備を求める声が多く聞かれました。車が通る道だけではなく、自転車など車以外の乗り物が通行することを想定し、段差の解消を始めとした歩道の整備などが求められています。

整備にあたっては、緑の多い小布施らしい環境を失わないため、市街化区域内の農地を守りながら行うことが求められ、またこの先の人口減少社会を見据え、開発を抑えながら進める必要があります。

人口減少や少子高齢化により、今後空き家の増加が予想される中で、所有者の意向等を踏まえた上で、早期に空き家の利活用を進められるよう、予防的な取り組みを進める必要があります。

#### 重点施策

##### 安心して通行できる道路・歩道整備

歩いて楽しい町、子ども・高齢者にも優しい町を目指し、歩行者、自動車が安心して通行できる美しい道路の整備を進めていきます。通学路については、交通安全施設個所のデータベース化を検討します。地元からの要望道路、町内の市街地巡回道路となっている町道（整備未実施となっている258号（通称：都住駅前線）を中心に）を計画的に環状線として整備していきます。

##### 空き家・空き地の予防と利活用の強化

できるだけ空き家が生まれないう、将来空き家になることが見込まれる住宅の把握と所有者への相談支援を行うとともに、防災・防犯、衛生、景観などの面での解消のため特定空き家の除却は所有者、相続人等と交渉を続けます。

空き家・空き地の積極的な利活用（民泊、移住者の住宅等）のため、小布施町に適合した空き家活用の取り組みを進めるための方針や体制を整備します。推進にあたっては、空き家・空き地の価値を高めるために、所有者相談や空き家マッチング等を引き続き行います。

→関連施策：重点施策 空き店舗の活用促進

→関連施策：基本施策 生活環境の保全

## 重点施策

### 無電柱化の推進

市街地開発事業等における新設電柱の抑制を図るため、開発行為等により道路を整備する事業の無電柱化の取り組みを支援します。

### 除雪体制の整備と強化

除雪作業は、オペレーター不足により難しくなっていますが、除雪業者の確保・迅速な除雪作業のための整備計画の作成と、オペレーターが安全に作業を行えるよう除雪路線整備のデータ化を行います。

また、課題となっている雪寄せ場の確保のための施策や、自主防災組織と連携した除雪のあり方を検討します。

### 国道 403 号及び市庭通り周辺の整備促進

小布施町の中心市街地を通る国道 403 号やその沿線について、道路管理者である県や沿道にお住まいの皆さんとの協働のもと、安心して歩ける道空間として、また小布施町の新しい象徴となるような「ひと中心の道空間」として整備します。

## 基本施策

### 上下水道事業の経営

下水道事業は令和6年4月から公営企業化がスタートしました。上下水道施設の更新時期が迫ってきていることから、耐震化を含めた施設更新を実施するなど、持続的な上下水道サービスの提供のため、安定した経営を進めます。

→関連施策：基本施策 ゲリラ豪雨に耐えうる水路の整備

→関連施策：基本施策 上下水道施設の更新・耐震化

→関連施策：基本施策 雨水排水施設の更新・耐震化・耐水化

## 分野別目標 4

### 安心な暮らしが守られているまち

事件などの犯罪や交通事故のない安心して安全に暮らせるまちづくりを推進します。

#### 現状と課題

近年、犯罪が複雑化・多様化しているため、被害に遭わないよう防犯に関する知識や意識を高く持つ必要があります。地域全体で防犯対策を強化するとともに、積極的な啓発活動を行っていく必要があります。

#### 重点施策

##### 消費生活相談の充実

悪徳商法などの消費生活に関する相談を受ける職員のスキルアップのほか、消費生活専門相談員などの専門的知識を有する者の配置を進め、「消費者ホットライン 188」の機能強化を図ります。

#### 基本施策

##### 防犯体制の強化と犯罪被害者支援

町防犯指導員会ほか警察等関係団体と連携した防犯意識啓発や防犯活動の強化に加え、街頭防犯カメラの増設や、特殊詐欺やSNS利用の詐欺、空き巣や窃盗などの犯罪の減少と被害の防止を目指します。

また、犯罪被害に遭われた方へ見舞金を支給するほか、家事・育児・介護などに係る日常生活でのサポートやカウンセリング等の支援を行います。

##### 交通安全施設整備や啓発活動、交通災害共済事業の充実

高齢者や子どもたちに向けた交通安全指導を交通安全協会など関係機関と連携し推進します。交通災害共済事業に関して、全員公費負担へと拡大し、万が一の事故時に見舞金を支給することで被災者の経済的負担の軽減を図ります。

また、自治会内での加入申込書回収等事務手続きの大幅な負担軽減を図ります。

## 分野別目標 5

### 豊かな自然が保たれ、環境負荷が抑えられているまち

美しい自然環境と良好な生活を維持するために、町民の自然への関心を高め、自然保護に取り組む意識の醸成を図るとともに、自然の保護に取り組む町民や事業者などとの連携を深め、自然環境の保全活動の担い手の育成を図ります。

2050年（令和32年）に町内におけるゼロ・カーボン（二酸化炭素実質排出ゼロ）を達成することを目標とし、温室効果ガスを出さない町を目指します。地域からごみに対する意識変革に取り組むとともに、これまで廃棄物となっていたものを資源として捉え、できる限り無駄なく利活用し、ゼロ・ウェイスト（ごみを出さない町）を目指します。

#### 現状と課題

町民の環境美化意識の向上を図るため、自治会、不法投棄防止指導員などの参加を得て、環境美化運動を継続する必要があります。

1人1日あたりの家庭ごみの排出量は減少傾向で推移していますが、今後も環境負荷の低減のため、ごみの減量化・再資源化を推進する必要があります。



## ゼロ・カーボンの推進

住宅向け太陽光発電設備・蓄電池設置補助や、公共施設・自治会公会堂への太陽光発電設備の導入を進めています。

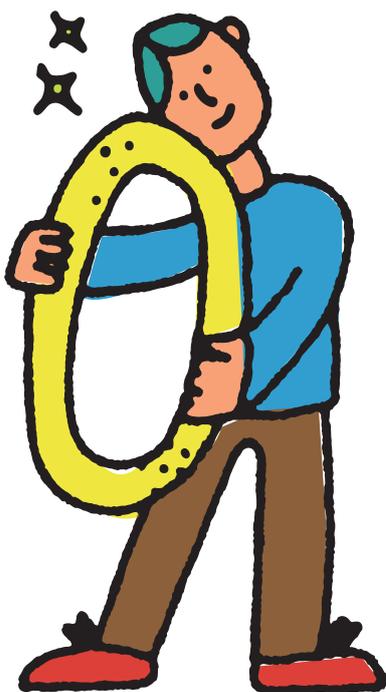
今後は、町内の発電ポテンシャルを発揮する観点から営農型太陽光発電（ソーラーシェアリング）の景観と調和した設置方法の確立を目指し、町内でまかないきれない需要に対しては、遠隔地に設置した再エネ発電所から小売電気事業者を介して電気を購入し町内で使うモデル（オフサイトPPA<sup>\*31</sup>）の検討を進めます。

また、化石燃料に代わる燃料として、おぶせフラワーセンターにおいて木質バイオマスの熱利用の実証事業を進めます。木質燃料を継続的に供給する事業主体の確立や、木質バイオマスの燃料需要の創出（民間等への拡大）を推進していきます。

## ゼロ・ウェイストの推進

小布施町内で排出される家庭ごみの約5割は生ごみ・草木が占めています（令和5年度調査結果）。これらを有機資源として活用するための実証として、可燃物として廃棄されている生ごみ・草木の全量を活用すべく回収方法や効率的な処理方法の検討を進めます。

また、町内飲食店と連携し、テイクアウトする際のマイ容器持参の促進に向けてさらなる取り組みを進めていきます。



\*31 PPA：Power Purchase Agreement（電力購入契約）の略称で、オフサイト PPA とは、発電事業者が電力需要施設と離れた場所に発電設備を設置し、小売電気事業者が電力系統を経由して発電した電気を需要家に供給する仕組みである。

## 自然環境を活かした水に親しむ機会の提供

小布施町には、千曲川をはじめとした3つの一級河川が流れています。そうした自然環境を活かしながら、町民の水辺環境保全への意識を醸成し、水に親しむことのできるサップ\*32、ラフティング\*33、カヌーなどのウォーターアクティビティを体験する機会を積極的に提供します。

## 生活環境の保全

清潔で美しい生活環境を作るため、環境美化活動を通じて意識の向上を図ります。

不法投棄の発生を抑止するため、不法投棄防止指導員によるパトロールのほか、常習箇所への監視カメラの設置を検討し、不法投棄されにくい環境づくりを進めます。

また、大気や水質、騒音、振動、悪臭などの苦情のほか、ペットのふんや放し飼いなどの生活マナーに関する苦情も増えており、快適で住み良い生活環境の維持に向けた取り組みを行います。

→関連施策：重点施策 空き家・空き地の予防と利活用の強化

## 生物多様性の保全

開発による農地の減少等による動植物の生息域の変化や、外来種の侵入が在来種の生態系維持を脅かすものとなってきていることから、絶滅危惧種をはじめ、動植物の保護や保全を図ります。

また、町民が自然について学ぶ機会や、自然を活用し自然の恩恵を感じられる機会を提供します。

→関連施策：基本施策 すべての人への包摂的かつ質の高い学びの促進

## 主な関連計画

- ・小布施町地域防災計画
- ・小布施町環境ランドデザイン（令和4年度～令和12年度）
- ・小布施町国土強靱化地域計画
- ・一般廃棄物処理実施計画（単年度）
- ・第10期小布施町分別収集計画（令和5年度～令和9年度）
- ・小布施町災害廃棄物処理計画
- ・小布施町森林整備計画（平成27年度～令和6年度）
- ・小布施町橋梁長寿命化修繕計画（令和4年度～令和13年度）
- ・小布施町下水道事業経営戦略

\*32（SUP、スタンド・アップ・パドルボードの略）ボードの上に立ち、パドルを使って水面を漕いで進むウォーターアクティビティ。

\*33 水流を利用して川下りをするウォーターアクティビティ。

## 6 行政経営



多様な主体と協働し、中長期的な視点に立って計画性のある行政運営を推進します。

### 分野別目標（ありたい姿）

- 1 安定的な財政運営
- 2 持続可能な行政運営
- 3 多様な協働が支えるまち
- 4 職員がいきいきと働き、成長できるまち

### 達成目標（KPI）

評価指標	現況値		目標値 (令和11年度)	該当
	値	年度		
ふるさと納税寄附額	8億7,000万円	令和5年度	10億円	分野別目標1
町税収納率	99.0%	令和5年度	99.8%	分野別目標1
財政調整基金の積立額	17億6,294万円	令和5年度	10億円以上の確保	分野別目標1
公共施設の延べ床面積	57,981.45 m <sup>2</sup>	令和5年度	52,789.78 m <sup>2</sup> (約9%の縮減) 令和22年度	分野別目標2
行政との施策展開に具体的に つながった協働プロジェクト数	—	—	5事業	分野別目標3
ホームページへのアクセス数	2,252,881件/年	令和5年度	3,000,000件/年	分野別目標3
職員の研修・視察参加延べ人数	648人	令和5年度	1,000人	分野別目標4
職員の平均（月）時間外在庁時間	30時間	令和5年度	30時間以内	分野別目標4
職員の年次休暇消化率*34	31.0%	令和5年度	50%	分野別目標4

\*34 任期付職員・再任用職員・県等からの交流職員を含み、会計年度任用職員は除く職員のうち、全期間在職した職員（育児休業、町から県等への派遣等を除く。）の年次休暇取得日数から算出した値。

## 分野別目標 1

### 安定的な財政運営

総合計画に掲げた施策の展開と安定的な行政サービスを提供するため、安定的な財源の確保に努めます。また、健全財政を維持するために、町税及びふるさと納税などによる自主財源の確保に戦略的に取り組みます。

#### 現状と課題

小布施町の財政は、新たな起債を極力抑え計画的に繰上償還を実施してきた結果、普通会計の町債残高は平成11年度の75.1億円をピークに減少傾向にあり比較的健全な状態です。

しかし、人口規模に比した財政の規模は類似団体に比べて小さく、また、歳出に占める経常的な経費（扶助費や人件費、公債費等）の割合が高いため、投資的な目的に使える経費が少ない状況です。

今後は、少子高齢社会の進行により、税収の大きな伸びが期待しにくい一方で、社会保障関係経費の大幅な増加が見込まれます。さらに、公共施設の老朽化に伴う大規模な修繕や建て替え等も必要になるなど、財政を取り巻く状況はより厳しくなるものと予想されます。

また、近年の財政健全化には、堅調なふるさと納税による歳入増が大きく寄与しており、このような既存制度を最大限に研究・活用していくことが求められます。

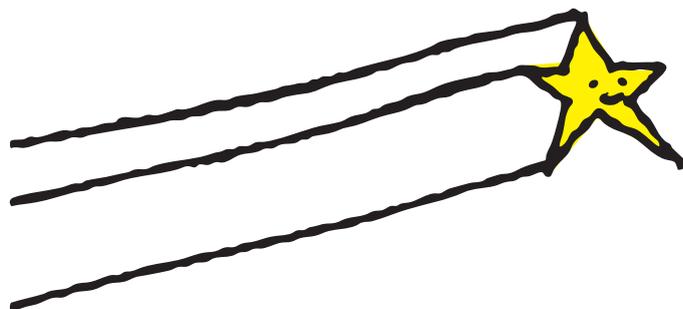
#### 重点施策

##### 歳入改革の推進

町の魅力創出につながる新規事業の拡充や将来的な財源確保に向けて、ふるさと納税による納税額や寄附件数の拡充に向けた各種取り組みを推進します。

また、寄附の用途や成果をわかりやすく公表することで、納税者への町への信頼感を醸成し、寄附のリポートや来町の動機付けにつなげます。

→関連施策：重点施策 関係人口の創出



### 安定的な財政基盤の確立

引き続き厳しい財政運営が予想されることから、重要な事業を着実に推進する一方で、歳出を精査し、安定的な自主財源確保に努めるとともに、行政資源を効果的に活用し、持続可能な財政基盤を確立します。

### 税の適正課税と収納

税の仕組みや税制改正などについて町民にわかりやすく周知し、納税についての啓発を進めます。公平な税負担の観点により、適正な課税客体の把握と納付しやすい環境の検討、導入に取り組みます。滞納者に対しては庁内の「滞納整理プロジェクト」を推進し、法に基づく滞納処分を実施することで、滞納繰越額の縮減を図るとともに、税負担の公平性を確保します。

### 確実かつ効率的な公金運用

経済や金融動向等を注視しながら、安全かつ確実な方法で資金を効率的に管理、運用をすることを目指します。

## 分野別目標 2

### 持続可能な行政運営

持続可能な行政経営を進めていくには、町民及び職員の負担軽減を目指しデジタル技術の活用に取り組む必要があります。また、中長期的な視点に立った職員体制を確保・育成します。

#### 現状と課題

マイナポータルや自治体独自の電子申請システムを利用した行政手続きオンライン化の推進や、窓口手続における町民の負担削減及び職員の業務負担軽減を目指す自治体窓口DX「書かないワンストップ窓口」の導入をデジタル庁が推進しており、令和6年度には当町においても「書かない窓口」システムを整備するなど、町民サービスの向上に努めてきているところです。

今後、「コンビニ交付」など町民サービス向上に資するシステムについて導入を検討し、他市町村との足並みを揃え、町民ニーズに応じたサービスを提供できる体制を整えることが必要です。

## 住民サービスの向上と業務改善・働き方改革に資する自治体 DX の推進

住民サービスの向上や、業務改善・効率化につながるデジタル技術やシステムの導入、環境整備を庁内のDX推進会議等の場で検討し、全庁横断的に進めます。

役場庁舎のネットワークのうち、LGWAN接続系のネットワークの無線化を図り、働きやすい環境づくりを整えるとともに、内部打合せの際のペーパーレス化を推進します。

## 基幹系システムの標準化・共通化対応

国で整備を進める情報連携基盤「公共サービスメッシュ」への連携、データ利活用を見据え、令和7年度末期限に迫る基幹系システム標準化・共通化対応について、期限までの移行完了を目指します。

## 公共施設マネジメントの推進

公共施設の老朽化に対応するため、計画的に建替工事や改修工事を行う必要があります。既存施設をできる限り有効に活用し、計画的に施設の統廃合を進め、施設総量（延べ面積）の縮減を図るほか、建物の長寿命化、民間活力の活用などによる管理運営の効率化に取り組みます。

## 分野別目標 3

### 多様な協働が支えるまち

さまざまな専門性や得意分野をもつ各種機関と連携しながら、町全体が一つの目標に向かって知恵と汗を出し合う「協働力」でまちづくりを進めます。

#### 現状と課題

町がさらに豊かさや安心を感じられる住みよいまちとなるためには、町民や町内外の企業、大学、行政などが議論を交わし、同じ目的のもとで協働することが大切です。そのため、地域づくり活動やまちづくり活動を行う団体の支援、企業や大学、若者との連携を促進する場づくりを創出します。

当町では、「町報おぶせ」の発行や「広報おぶせ（同報無線）」、町ホームページ、LINE配信やフェイスブック、おぶせチャンネルなどの媒体を活用し、町民の生活に密着した町政情報を積極的に発信・提供しています。令和6年度には、より見やすく、情報を探しやすいサイトを目指して町ホームページをリニューアルし、チャットボット<sup>\*35</sup>を導入しました。今後もこれらの広報媒体手段の一層の充実を図るとともに、町民に的確に情報が伝わるよう、より効果的な広報手段についても検討していく必要があります。

\*35 想定される質問・返答などの情報を事前に登録しておくことで、ユーザーの問い合わせに応じて人工知能（AI）が自動的に返答するシステム。

## 小布施まちづくり委員会など町民との協働

町に暮らす誰もがまちづくりの主役であり、お互いに寄り添い支え合いながら、さらに安全・安心な地域づくりに向けて、行政や事業者などの垣根を超えて一緒に取り組みます。

→関連施策：分野別目標4 こどもを地域で見守り育むまち

→関連施策：重点施策 支え合い活動の推進

→関連施策：基本施策 地域との協働連携体制の強化、つながりづくり

→関連施策：重点施策 花のまちづくりの推進

→関連施策：基本施策 自主防災会の育成・強化

## 多様な主体間協働による特色あるまちづくりの推進

さまざまな施策領域において、町と大学、企業等とが連携・協働する場を設けることで、町の施策に学術的な知見、時代の先端を走る事業者の視点や事業経験等を取り入れるきっかけを作り、特色あるまちづくりの推進を図ります。

バーチャル町民会議などの協働事業を展開することにより、関係人口より深い関わりのある町外在住の「共創人口」の創出や拡大を図るとともに、町内在住の若者が次代のまちづくりの担い手になる仕掛けづくりや機運醸成を進めます。これらの取り組みを町民とともに推進するため、ホームページや回覧板、SNSなどで積極的な情報発信及び広報を行います。

→関連施策：重点施策 魅力的な事業者誘致、多様な起業支援の推進

→関連施策：基本施策 企業や大学、若者との連携を促進する場や仕組みづくり

→関連施策：重点施策 関係人口の創出

## 広報・広聴活動の充実

町民がまちづくりに参画する機会の創出のため、行政の情報をできるかぎり町民に共有し、町民の意見を町政に反映する仕組みとして、町からの一方的なお知らせから、町民と行政とのコミュニケーションツールの一つとして広報・広聴活動の充実を図ります。

町報おぶせの充実を図り、行政情報を分かりやすく、町民に親しまれる広報紙づくりに努めます。また、広報おぶせ（同報無線）、町ホームページ、LINE配信等を活用し、町民への迅速かつ正確な情報提供に努めるとともに、よりの確に情報が伝わるよう、効果的な広報手段について検討します。併せて従来の町政懇談会や私の意見箱のほか、今の時代に合った広聴手段についても検討を行います。

## 分野別目標 4

### 職員がいきいきと働き、成長できるまち

多様化する町民のニーズに柔軟に対応し、現場・現実に即した対応や改善策の立案、それに伴う高度な専門性を持った職員の育成を目指します。また、住民サービスを向上させ、かつ継続的に行政運営が行えるよう組織として対応できる体制づくりを進めます。

#### 現状と課題

職員の業務負担軽減と町民サービスの向上及び組織として機能する体制を整えるため、積極的な職員採用を行ってきています。その結果、行政経験の少ない職員が多くなり、業務を遂行する上で管理監督者のマネジメント力の重要性が増加しています。今後5年間は、新入職員の育成と係長以上の職員のリーダーシップ及びマネジメント力の向上が重要となっています。

#### 重点施策

##### 職員の能力開発と資質向上

業務に必要な基本的スキルを身につける研修や、職位に応じた役割を認識し遂行できるようにする研修などで人材育成を行います。加えて、まちづくりを考える上で参考となる地域に行き、直接関係者から学ぶ「視察」を積極的に行える環境を整え、職員が公務員に必要な知識と広い知見を有し、外からの刺激により意欲的に業務に取り組めるよう努めます。

また、職員の年齢構成上、行政経験の少ない管理職が増えていく中で、マネジメント力のさらなる向上を図るため、人材マネジメント研修を実施していきます。

##### 職員の意識改革と業務の効率化

業務のDX化、ペーパーレス化、業務マニュアルの整備により業務効率の向上、在庁時間の短縮、時間外勤務の適正化、経費節減に取り組みます。これにより職員の負担軽減と町民の利便性向上に努めます。

##### 職員の衛生管理強化

働きやすい職場環境の形成を促進し、職員の心身の健康の保持及び増進に努めます。定時退庁日を設けるほか、健康づくりの取り組みとして、人間ドック及び定期健診の受診率100%を目指し、健診結果に基づき、受診勧奨や保健指導を行います。メンタルヘルス対策では、ストレスチェックの結果を基に改善策を検討するとともに、職員からの意見要望、提案を職場改善につなげる仕組みづくりを進めます。また、健康教育を通じてメンタルヘルス不調者の発生予防に努めます。

併せて、療養休暇者や退職者に対するフォローアップを組織として行い、職場復帰に向け継続的にサポートします。

## 主な関連計画

- ・小布施町公共施設等総合管理計画
- ・小布施町公共施設個別施設計画
- ・小布施町人材育成基本方針

